

2017年(平成29年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	Ⅱ-4(1) 健康で安心して暮らせる社会の構築 (良好な大気環境を確保するために)	施策No.	20	施策名	光化学オキシダント対策の推進
-----	--	-------	----	-----	----------------

目的、内容	原因物質の一つであるVOC排出量を、法・条例による排出規制や自主的取組の促進により削減する 光化学オキシダントとその原因物質の広域移流による影響の把握に努める 2020年目標：光化学オキシダント濃度0.12ppm(注意報発令レベル)未滿を目指す			
副次的効果、外部効果等				
関係法令、行政計画等	大気汚染防止法、府生活環境の保全等に関する条例：NOx、VOCの排出規制 第9次大阪地域公害防止計画 大阪府化学物質適正管理指針：VOC排出抑制			
国等の政策、社会情勢等	2012年3月環境省「光化学オキシダント調査検討会報告書」：モニタリングの充実・データの多角的解析、排出インベントリの精緻化、シミュレーションの高度化を通じて光化学オキシダントに関する現象解明を進める 2013年に開催された「第15回日中韓三カ国環境大臣会合」において、国の提案により大気汚染に関する三カ国政策対話の設置に合意 2014年8月中央環境審議会大気・騒音振動部会微小粒子状物質等専門委員会：光化学オキシダントの環境改善効果を示すため新指標が示された。 2017年3月環境省「光化学オキシダント調査検討会報告書」：シミュレーションモデルを用いて、各種の要因の程度を明らかにすることや光化学オキシダントの原因物質の削減による感度解析等に取り組むことで、光化学オキシダント濃度の長期的な傾向に影響を及ぼす要因の検討を進める。			
(参考) 「講じた施策」に記載した施策事業コスト	2014年度(決算額)(千円)	2015年度(決算額)(千円)	2016年度(決算見込額)(千円)	
	427	360	183	
	※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。			
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績	
①	光化学スモッグ注意報発令回数	環境白書掲載データ	3回(2014年度)、11回(2015年度)、7回(2016年度)	
②	光化学オキシダントの日最高濃度が0.12ppm以上の日数	「大阪府における光化学スモッグ発生の実況とその対策」	4日(2014年度)、12日(2015年度)、11日(2016年度)	
③	非メタン炭化水素の年平均濃度(一般環境測定局)	大気汚染常時監視結果の報道提供資料	単位：ppmC 0.16(2014年度)、0.17(2015年度)、0.16(2016年度)	
④	VOC届出排出量(再掲)	生活環境保全条例に基づく届出排出量をもとにした集計値	10.2千t/年(2013年度)、10.5千t/年(2014年度)、9.8千t/年(2015年度) 【参考】10.9千t/年(2010年度)	
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況
	NOx等ばい煙対策			
	排出事業者に対する排出抑制指導・規制	☆☆	大気汚染防止規制指導事業	届出指導・審査、立入検査による改善指導等
	事業者による自主的な負荷削減への取組みの促進	☆☆	化学物質対策推進事業	事業者に対する化学物質の排出削減の指導助言(施策No.26参照)
	VOC対策			
	大規模排出事業所に対する排出基準の遵守指導	☆☆	大気汚染防止規制指導事業	届出指導・審査、立入検査による改善指導等
	光化学スモッグ発生時における排出削減要請	☆☆	光化学スモッグ対策事業	緊急時対象工場へのNOx削減要請のべ945回(2016年度)
	化学物質管理制度を活用した事業者による自主的取組の促進	☆☆	化学物質対策推進事業	事業者に対する化学物質の排出削減の指導助言(施策No.26参照)
	広域移流の実態把握、監視の推進			
	光化学オキシダントへの影響の実態調査 広域移流の監視	☆☆	光化学オキシダントの汚染機構に関する研究(2010~12)(環境農林水産総合研究所)	国立環境研究所と全国の地方環境研究機関の共同研究のなかで汚染特性、高濃度メカニズムに関する研究を行った。
	光化学スモッグ前日予報制度の導入手法の検討	☆		気象庁では前日気象情報を発表しており、府の光化学スモッグ発令情報に、前日気象情報を取り込むことを検討。
	※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗			

評価		評価	理由等
評価	施策目的の達成状況	現状では目標を達成していない日数が数日ある	光化学オキシダントの日最高濃度が 0.12ppm 以上の日数は年度により変動があるが、直近の2016年度は11日。
	事業・工程の進捗状況	一部は計画以下の進捗	
計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等
	目標	無	
	施策の方向・主な施策	無	
	工程表	無	
	その他の改善事項	無	
関係課室	環境管理室		

環境総合計画	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて、概ね妥当である。	評価結果については、概ね妥当である。しかし、光化学スモッグ前日予報制度の導入手法を検討から実施へのプロセスを明確にする必要がある。	計画の見直し又は改善方針については、概ね妥当である。